学校教育ビジョン
〈書んで登校、満足して下校〉
・学力向上ロードマップや学校研究を通した学力向上の取組
・豊かな心を育てる教育と生徒指導の4つの視点を生かした取組の推進
・優やかな体づくりと命を守る力の育成
・教職員の指導力向上と組織的な学校運営の推進
・家庭・地域との連携・協働の推進と郷土を愛する心の育成

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果(中間)	判定結果(最終)	今後の改善策
①教育課程•学習指導	スリナポナの 1 の場合づ	子どもたちが自分の考えをもつことができ るように、「個別長道な学び」と「協働的な	研究部 教務部	学カテストでは無回答が多く、自分の考え を持てない児童が多い。自由進度学習も 取り入れ、単元構想シートや評価問題を活 用した授業収替に努めている。	持つことができたか。	自分の考えを持つことができた児童 が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	児童に対してアンケートを実施(7 月・12月)			
	(V)	学び」、敬師のコーチングカの向上に取り 組む。		児童が?を持ち、自分たちで解決していこう とする授業づくりに努めているが、教師の発 話が多いため、「児童が主役の授業」として 十分ではない、より児童中心の授業にして いぐ必要がある。	【努力指標】 教師のコーチングカの向上を図り、授業改善に努めたか。	「児童が自分の考えを持てる指導に努めた」と回答した教職員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員に対してアンケートを実施(7月・12月)			
②生徒指導 ※いじめの未然防止	共感的人間関係を育みながら、自己決定できる集 団づくり	毎月の生活目標は自分たちで話し合って 決め、取り組む。自分や友だちのよさを感 じ、伝え合う集団づくりをする。 (ChokuCGs)	生徒指導部	自分にはよいところがあると言えない児童 がいる。	【成果指揮】 自分にはよいところがあると実感させられたか。	「自分にはよいところがある」と回答した児童が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童に対してアンケートを実施(7 月・12月)			
③キャリア教育・進路指導	主体的活動の重視	児童会やファミリーを中心に児童会活動を 企画運営する。教師のフィードバックや子ど も同士の認め合いの場などを設定する。	教務部 生徒指導部	昨年度は、肯定的に回答した児童が90% で、どの学年も児童の主体性を大切にした 取組が行われているが、成長を実感できて いない児童もいる。	【成果指揮】 児童会活動や学校行事などを通して、子ど も自身の成長を実感させたか。	学校生活を通して、自分の成長を実感 できた」と回答した児童が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童に対してアンケートを実施(7月・ 12月)			
④保健管理	自己調整力を働かせた計画力の向上	自らの生活に課題意識を持ち、メディアコントロールを通して、生活をよりよくしようとする力の育成に取り組む。	健康教養部	日常的なメディア利用の実態を自覚し ておらず、児童が課題意識を持ててい ない。	【成果指標】 メディアとの付き合い方に課題意識を持ち、 メディアコントロールに取り組んでいる。	「メディアとの付き合い方に課題意識を 持ち、メディアコントロールに取り組んで いる」と回答した児童が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 75%未満	児童に対してアンケートを実施(7月・ 12月)			
⑤安全管理	教師の危機対応能力と児 童の危機回避能力の向上	避難訓練と防犯教室の実施	生徒指導部総務部	教職員の危機対応能力の維持とともに児童 の危機回避能力を向上させる必要がある。	【成果指標】 教師の危機対応能力と児童の危機回避能 力を同上させることができたか。	教職員の「危機対等能力」が向上したと 回答した教職員、自分の「危機回避能 力」が向上したと回答した児童がともに A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教職員と児童に対してアンケートを実施(7月・12月)			
⑥特別支援教育	全職員による児童の実態 の共有と個に応じた支援	児童理解の会を月1回実施 専門相談員、特別支援教育アドバイザーを 必要に応じて派遣要請 児童の実態に応じて個別の指導、少人数指 導の実施 支援員の適切な配置	生徒指導部	気になる児童がいたときに共有する体制が 整っている。共有後も継続的に児童に応じ た支援が必要である。	【成果指標】 児童理解の会を通して児童の実態を共有 し、その後適切な支援ができたか。	「児童理解の会を通して児童の実態を 共有し、その後適切な支援をすることが できた。」と回答した教職員が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員に対してアンケート実施(7月・ 12月)			
⑦組織運営・業務改善	負担滅, 時間外勤務時間 の削減につながる業務の 効率化	校務支援システムの利用を通した業務の効 率化(通知表・指導要録の作成)	総務部	学期末や年度末の通知表や指導要録の作成にかかる業務に多くの時間が割かれている。		校務支援システムの利用による業務の 効率化が図れたという教職員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員に対してアンケート実施(7月・ 12月)			
⑧研修	主体的な研修への参加	教職員のニーズに応じた校内研の実施	教務部 研究部	ICT機器の効果的な使用の仕方を中心とした研修会や、全職員の教師力向上を図る研修会を行っている。		ICTの研修において成果があったと感じる教職員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教職員に対してアンケート実施(7月・ 12月)			
⑨保護者・地域との連携	家庭や地域との「めざす児童像」の共有、児童と保護者・地域との積極的な関わり	「総合的な学習の時間」「クラブ」等で家庭や 地域の方の協力を得て、地域の教育力を教 育活動に生かす。	総務部	児童から地域への積極的な関わりが弱い。	【成果指標】 家庭や地域等の外部人材を活用した教育 活動に積極的に取り組んだか。	家庭や地域等の外部人材を活用した教育活動に積極的に取り組んだという教職員が 8 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教職員に対してアンケート実施(7月・ 12月)			
⑩教育環境整備	自己存在感の向上、共感 的人間関係の構築につな がる教室・学校環境の整 備	「CCGs」「学び合いハート」「委員会」等で一人一人や集団の頑張りやよさが可視化できる掲示	総務部 生徒指導部	教職員の声掛け、児童の作品や活動の振り 返りに対するコメント等、児童を認め、ほめ ることは増えたが、児童が自分(達)の良さ を実感できるところまで至っていない。	か。	自己存在感の向上、共感的人間関係 の構築につながる教室・学校環境を整備できたという教職員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教職員に対してアンケート実施(7月・ 12月)			

学校関係者評価